

●オオムラサキの幼虫を発見 すごい快挙

オオムラサキの調査観察を 1998 年に開始して、20021 年まで連続して幼虫を発見してきました。2017 年 12 月の 28 匹の幼虫確認がピークでした。そして 2021 年 12 月に 2 匹が確認されて以来、里山農園での確認がされませんでした。ところが今年の 3 月 13 日に中学 2 年生が、これまでここにはいないだろうと考えていたエノキ 30 番の根元を観察して見つけてくれたのです。画期的なできごとで正に再発見です。厳しい環境条件となっても自然の生き物は生き残って生命をつないで、生き物としてのしたたかさを持っているんだということを学ばされました。里山の会にすごい元気と展望を与えていただきました。京田辺市の宝物が生き続けてくれていたのです。再発見有難う。これからもしっかりと調査観察を続けて環境を守ってください。若い力の活動を期待しています。

●ヤマトサンショウウオの卵嚢をやっと発見される

ヤマトサンショウウオの生存について、行政機関などから里山の会が観察している卵嚢を譲ってもらえないだろうかととの相談が寄せられ、連日産卵調査を行うことにして観察行動を強化してきました。しかし昨秋からまとまった降雨がなく、これまで発見してきた水溜まりが干上がってしまいました。もう今年はダメとなるのではないかとこの気分が続きましたが、3 月の上旬から中旬にまとまった降雨があり、3 月 13 日の調査で一对の卵嚢が発見され、続いて翌々日に二つ目の卵嚢が産み落とされていました。ここでも非常に厳しい自然現象のなかで懸命に生きようとするものが頑張っているのを待ち続けていたということが分かりました。両生類たちはこの地球環境の変化で 100 年後には地球上から姿を消すのではないかとわれている生き物です。それが京田辺市に今現在生息できる条件があるのです。大切に見守ってゆきたいと思っています。これまで最初に卵嚢の発見がされた最も遅い時の記録は 2007 年 3 月 18 日に 6 個でした。今年はこれからも産卵が続いていくのではないのでしょうか？



●里山展 京田辺市中央図書館ギャラリーで 6 日間開催 中学 2 年生のチョウやトンボの標本に感嘆の声

里山の会は 6 年前から、活動の紹介と里山の会の調査観察の結果を多くの市民の皆様にお知らせしようと、山城地域の市町村で展示会を行ってきました。この取り組みを展開するにあたって、京田辺市中央図書館「ギャラリーかなび」で、結成した絵画サークルなどと展示会を行ってきました。2 月、3 月のこの時期の取り組みでは 1 年間の取組を総まとめの時期として絶好の機会として取り組んできました。この取り組みでは、足りないところや、反省点がたくさんありましたが今日まで続けてきた重要な発表会です。今回はこれまでになく中学二年生の昆虫観察記録や現地で採取した標本が展示されて、ご覧になっていただいた皆さんの心を温めてくれたのではないのでしょうか

●農園部会だより 3 月 15 日（土）里山農園他

上の池や農園の池での生き物観察や、昨年 10 月に仲間入りしたトラクターでの耕運、中沢親子による昆虫観察、ジャガイモの作付けに向けた準備など、参加者がそれぞれできることを実施しました。ひとつ残念なことがありました。トラクターの故障です。以前に太田さん、有田さんが補修してくれた冷却水の水漏れが再度発

生してしまいオーバーヒートしてしまいました。機械は故障がつきものですが、故障の大小や検討がつけられるように引き継いでいきたいな〜とも思った次第です。

また、1号地には動物の足跡を発見しました。先週の土曜日（8日）から今朝までに動物が出入りしたようです。周囲に柵は張り巡らせているので、柵の穴をくぐり抜けることができる小動物？ 柵を飛び越えることができる動物？ どちらにせよ、作物が荒らされないように考えないといけません。



1号地に出現した動物の足跡

●国交省淀川河川事務所から木津川希少種植生調査管理業務の公示がされ、2025年度も里山の会として受注申請書を提出いたしました。この提出には河川協力団体の資格が応募条件とされていて、5年間の実績を表記することが求められています。また各方面から表彰された経過も記載することになっていて、河川管理者との共同企画や活動についても問われるものです。そして年間のスケジュールについても記載しなければなりません。申請書の作成を取り組んでみると、実績だけでなく事務処理をいかに正確に着実に行われているかどうかが問われています。

●京都市京阪三条駅前 檀王寺 「京童の集い5回目の連続出店」竹サインペン 3月15日8時

思うように販売が進みませんが、連続4回出展をさせて頂きました。5回目の取組の計画の案内状を送付いただきました。ありがたいことです。あまり大きな期待をせずに開催されるときにあきらめず出店を続けられることが大切だと取り組みを始めました。それが5回目にして初めて開催案内を送っていただけたことは大変ありがたい出来事です。あきらめず大きな期待をせず、ボチボチ、少しずつ、粘り強く進めていくことですね。

●2025年度里山の会の役員（理事候補の推薦者がありませんでした）役員の任期が満了

名乗りや推薦者が無く、役員の増員や入れ替えがされず、現職役員の継続提案となる見通しです。課題は更に重大な事態に向っています。理事の平均年齢は81歳です。これからみんな弱音に負けず若手の育ちまで頑張らしましょう。

●新年度の大きな課題が見えてきました

これまで里山農園の開拓した頃はイノシシの被害は見られませんでしたでしたが、里山農園にも被害が出てサツマイモが全滅させられるなど被害が大きくなりました。それで私たちも500mのフェンスを張り巡りました。その後、幾度も侵入させられ修理を行ってきましたが、イノシシの完全な侵入を防止できませんでした。それで今年は修理するという小手先の取組ではなく、抜本的な対策を行わない限り里山農園での栽培は不可能となりますので、みなさんの一層のご協力を願います。

●会誌原稿（58号）の寄稿をお願いします。大至急お寄せください。お待ちしております

●新年度の初イベント 「親子花見乗船体験」はカヌーで実行します。

これまで応援支援をいただいていた摂南大学エコシビル部の体制が思うように進まずEボートの運行できません。そこで小学4年生以上の参加を条件に、カヌーの無料乗船を取り組みます。4月5日（土）10：00から14：00までの開催です。念のため着替えなどもご用意ください。そして保護者同伴を必須としていますのでよろしく願います。先立って会場の馬坂川河口の清掃を行いますので、ご協力をお願いします。3月30日（10時~11：00）。続いて午後は乗船足場の組み立ても行います。